

## 温熱療法としての作用

宇都宮義真が昭和七年（一九三二年）に東京光線療法研究所を創業してから、七十年に当たる平成十五年の新春を迎えることができました。これも偏にサナモア光線療法をご愛用頂いてい

る皆様のお引き立てによるものと心より厚くお礼申し上げます。本紙は、宇都宮義真が「光線」の名で昭和九年一月に創刊されましたが、昭和十年に「光と熱」に改め、第二次世界大戦による休刊をはさんで、昭和二十五年に再刊した際に「健康と光線」に題して発刊されました。この温熱療法の効能に関しては、サナモア光線療法に温熱療法としての作用があるからです。この温熱療法の効能について、近年、さまざまな新事実が解明されていますが、その中から熱ショック蛋白質について



記載します。

### サナモアの深部温熱作用

サナモアにはビタミンDを生成する作用に代表される光化学作用に加え、透過力がある輻射線（主に赤外線）の輻射熱で身体を深部から温める作用があり、この深部温熱作用の効果として以前より知られているのは、照射部を芯から温めることで血液やリンパの流れが良くなるため、新陳代謝を促進し、老廃物を排出し、即効性の優れた鎮痛効果や筋弛緩効果を示すことです。しかし最近になって、温熱刺激が種々のストレスから生体を防御する、熱ショック蛋白質と呼ばれる物質を産出することが明らかにされました。

生物はさまざまな物理化学的

発行所  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京（03）  
3793-5281  
3712-5322

### サナモア光線療法の温熱作用について—その1—

—熱ショック蛋白質の産出と生体防御効果—

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所  
医学博士 宇都宮 光明

### 熱ショック蛋白質の生体防御作用

熱ショック蛋白質には、ストレス反応による細胞傷害から細胞を保護するだけでなく、その後に加えられた強い傷害性のストレス、例えば致死的なストレスから細胞を保護する防御作用があります。この点についての研究から、今

ストレス刺激に遺伝子が応答して、ストレスに対する耐性を誘導し、細胞を保護するストレ

レス蛋白質と総称される一群の蛋白質を合成しています。この現象は、一九六二年にリトスがショウジョウバエに温熱刺

激を与えると

遺伝子発現が誘導されて新

しい蛋白質を

産出すること

を報告したこ

とに端を発しますが、これまで

の研究から、温熱刺激で生体防

御効果に優れた蛋白質が最も誘

導され易く、かつ蛋白質の産出

が著しく促進するため、熱ショッ

ク蛋白質と呼ばれています。

高率に認めますが、熱ショック蛋白質はこの副作用を抑えます。また手術や癌の治療に用いられる抗癌剤による化学療法や放射線療法のような侵襲的治療による副作用が、サナモアを治療前に使用したら、軽く済み、その後の経過が良かつたという経験談は良く聞きますが、熱ショック蛋白質はこのような侵襲に対する耐性を高め、治療に伴う副作用を抑制すると報告されています。

これらの報告は、サナモア光線療法が副作用を抑制する効果に熱ショック蛋白質の産出が関わっていることを示唆しており、サナモア光線療法の有効性を裏づけています。

迎  
春

平成十五年 元旦

(株)東京光線療法研究所  
サナモア光線治療院

(六日より営業します)

# 一病 息災

# 一病 息災

## ウイルス肝炎(B型・C型)

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

### 病気の解説

肝炎を起こす主な原因ウイルスは、最近までA型、B型、非A非B型と分類されていましたが、非A非B型は、一九八九年に遺伝子が解明され、C型肝炎ウイルスと命名されました。現在、わが国には約二百万人のC型肝炎ウイルスの感染者(キャリア)がいると推定されています。肝炎は臨床経過から分類する

と、大きく急性肝炎と慢性肝炎に分けられます。急性肝炎は一過性で完治が望めるのに対し、慢性肝炎は肝炎ウイルスが持続感染した状態で、長い年月をかけ徐々に進行し肝硬変となります。実際には、肝臓は障害されても代償機能に優れるため自覚症状が現れにくい臓器で、かなり進行し女性化乳房、腹水、黄疸などの症状を呈するまで気づかれないこともあるため注意が必要です。

**B型肝炎の場合、B型肝炎ウイルスの感染は、乳幼児期まで**の感染(母子感染)がほとんど起こされており、今後早期の対応が望られます。

肝炎は臨床経過から分類する

で、キャリアに移行後、大多数が十代後半から三十代にかけて肝炎を発症し、鎮静化後一〇〇二〇%の例で肝炎が持続し、早期に慢性肝炎から肝硬変・肝細胞癌へと進展します。これに対しC型肝炎では、多くのC型肝炎ウイルス感染が、衛生環境の悪い時の売血・輸血、注射などの医療行為、覚醒剤の使用、刺青などにより生じたと考えられています。急性C型肝炎は、自覚症状が軽く、血液検査による肝機能異常も軽度なことが多いのですが、感染後の慢性化率はきわめて高く、とくに成人での

症例: 48歳、女性

主訴: 肝機能障害

起始・経過: 以前から、健診時の血液検査にて肝機能障害を指摘されていたが放置していた。数年前に献血を行った際、はじめて日本よりC型肝炎に罹患しているとの通知を受けたが、全身倦怠感などの自覚症状は認められず近医で経過観察されていた。今回、知人に肝庇護目的にて光線療法を勧められたため来院した。

治療: 左側臥位にて45分、5灯照射

腹部(BD)、背部(BD)、後頸部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)

経過: 在宅での光線治療をほぼ毎日続けながら、月に1、2回の頻度で全身照射を開始したところ、血液検査による肝機能の数値も安定し、以前に比べるとかぜもひきにくく体調良好に経過している。

### 病気と光線療法

感染で高率にキャリア化します。また慢性C型肝炎の約三三%は二十年以内に肝硬変に進展し、三一%は肝硬変に進展しないか、進展するとしても五十年以上の年月を必要とすると推測されています。

慢性肝炎の治療は、基本的に飲酒、肥満、過労を避け、適度の運動と適正な食事を心掛けるとともに、身体を休め肝臓への十分な血流を確保することが重要です。元来、肝臓は人体の臓器の中で最も再生力に富む臓器であり、外科手術で四分の三程度切除しても数か月で元通りに回復します。ですから、少しでもC型肝炎では、多くのC型肝炎ウイルス感染が、衛生環境の悪い時の売血・輸血、注射などの医療行為、覚醒剤の使用、刺青などにより生じたと考えられています。急性C型肝炎は、自覚症状が軽く、血液検査による肝機能異常も軽度なことが多いのですが、感染後の慢性化率はきわめて高く、とくに成人での

第七期  
サナモア光線治療師  
養成講座を東京にて開講  
前号でお知らせした第七期サ  
ナモア光線治療師養成講座を、  
七名の参加者を迎えて、昨年十月  
月

vol.12

## サナモア便り

宇都宮 正範

に東京において開講しました。  
今回、治療師認定を受けられた  
方々をご紹介します(写真右)。  
治療師認定者

石田吉賢(大阪府)、坂口雅代  
(福岡県)、岩村春夫(福岡県)、  
権藤一米(福岡県)、山本清治  
(愛知県)、菅原良夫(岩手県)、  
柳喜久子(東京都)以上敬称略。



第七期養成講座受講者

日時…一月十八日(土)午後二時  
場所…サナモア光線治療院  
三階会議室

医療に関連した話題の講演や  
治療例の報告を中心とした研究  
会を開催していますので、一般  
のご愛用者の方も是非ご参加下  
さい。なお参加は無料です。

このコーナーでは、新規に光  
線治療院を開業された先生方や、  
既に開業されてご活躍中の先生  
方を紹介させて頂いております。

## 治療院紹介

このコーナーでは、新規に光  
線治療院を開業された先生方や、  
既に開業されてご活躍中の先生  
方を紹介させて頂いております。

サナモア光線  
真(まこと)治療室  
(写真左下)

平成十四年七月二十四日開院  
電話…〇九一七五二一〇〇八  
住所…福岡市中央区薬院三十一  
四二一五〇五

交通…西鉄大牟田線薬院駅下車  
徒歩五分または西鉄バス  
薬院大通り下車徒歩三分

院長…副島真紀子先生  
一言…私とサナモア光線療法と  
の出会いは三十数年前に  
さかのぼりますが、今は

亡き前田ミサ先生(育美  
健康光線療研)から色々

次第です。治療院は、誠  
意をもって治療にあたる  
という意味を込めて「真」  
治療室と命名致しました  
が、これからも、初心を  
忘れず、病気で困つてい  
た患者さんへ

る患者さんの希望の光と  
なるべく邁進したいと思つ  
ております。

東京光線治療院  
(海渡一二三先生)  
移転のお知らせ

東京光線治療院が昨年十二月  
に移転となりました。新しい治  
療院は武蔵小杉駅から徒歩一分

新住所…川崎市中原区新丸子町  
九一一番地一七  
武蔵小杉マンション  
一〇二号室



副島真紀子先生

電話…〇四四一七三一五〇六七  
FAX…〇四四一七三一七四五三  
(電話、FAXは変わりません)

## 募集

## サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、  
サナモア光線療法の普及に  
ご協力頂ける方、治療院の  
開業を検討なさりたい方は、  
お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063  
東京都目黒区目黒1-23-11  
TEL (03) 5759-3710  
FAX (03) 5759-3720



## 日本療術学会から

第14回

福岡県福岡市・博多全空ホテル  
平成14年1月17日・18日

## 糖尿病の合併症の治療経験



社団法人 神奈川県療術師会

海渡 一二三

れて来院したので、その治療経験について報告する。

## 症例

〔患者〕 20歳 男性 学生

〔初診日〕 平成11年8月27日

〔主訴〕 来院時、失明状態

の視力障害、強い胸やけと嘔吐

を訴えており、糖尿病性白内障、

糖尿病性自律神経機能障害によ

る逆流性食道炎と診断されてい

た。また患者は血糖値がコント

ロールされ、白内障の手術で視

力を回復して退院したが、その

五ヶ月後に左下肢に激痛を訴え

るようになり、糖尿病性神経障

害に起因する神経痛と診断され

手を引いて来たが、痩せこけて衰弱しており、顔面蒼白で生気がなく、強い冷え性があり、食事の度に何時も吐くのがつらいと訴えていた。

## 治療

全身照射と症状に対応した患

部照射を三台または四台の治療

器具を同時に用いて多灯照射した。

カーボンは病状に応じてAA、

BD、ABを使い、側臥位で目

を閉じて顔、腰、臀、膝に各30

分、次に腹30分の間に後頭部、

膝裏に10分、足裏に20分、仰臥

位で左耳、右頸部、左横腹、右

膝に10分、右耳、左頸部、右横

腹、左膝に10分照射した。

## 治療経過

患者は病院から毎日通院した

が、治療を始めて二ヶ月後に胸

やけはなくなり吐かなくなつた。

しかし視力は改善しないため、

三ヶ月後に医師に白内障の手術

を打診したところ、糖尿病はコ

ントロールされ手術に支障はないが、糖尿病性網膜症を併発し

ていると視力回復は保証できないと言われた。そのため母親が手術を済ったが、片方の手術をして視力の状態を診ることにして、視力が回復した。その後三ヶ月後に残りの目の手術を行い、両眼視力を回復した。その頃には冷え性も改善しており、術後一ヶ月で元気に退院した。

それからも光線療法は続けていたが、退院五ヶ月後に左下肢

にちぎれるような痛みを訴え、

糖尿病性神経障害による神経痛

と診断された。そのためABカーボンで追加照射したが、九ヶ月

後には改善し、その後、再発していらない。

現在、病院の治療と光線療法

を続けているが、全身状態は良

好に推移しており、母親は息子

が見違えるほどたくましい身体

になつて学生生活を送っている

ことを喜んでいる。

糖尿病はインスリン依存型糖

尿病、インスリン非依存型糖尿

病、その他の二次性糖尿病に分

## 考案ならびに結語

糖尿病は多彩な合併症を起こす病気であり、治療の目標は合併症の予防・進展の抑制である。

光線療法がその助けになることを願い、経過観察を続ける所存である。

インスリン依存型糖尿病はインスリンを分泌する臍臓のランゲルハンス島々細胞の機能が廃絶して発症するため、インスリ

ンで血糖値をコントロールする治療が欠かせない。そのため入院加療中の20歳の男子学生が、病院の医師から症状の改善に光線療法を併用することを勧めら

れた。その後、治療経験について報告する。

〔既往症〕 約一年前にインスリ

ン依存型糖尿病と診断されたことを除き、特記事項はない。

〔家族歴〕 家系に糖尿病はない。

〔現病歴および初診時所見〕 入院三ヶ月後に医師から糖尿

病に由来する症状の改善、合併

症予防のために光線療法を勧められて来院した。当院初診時に

は失明状態で一人では歩行でき





93歳になります。いつもサナモアを愛用させていただきありがとうございます。私は以前から骨粗鬆症を患い、腰痛が悩みの種で今までに注射を20本くらいいちまつたが一向に痛みが改善せずに困っていました。一人暮らしのため外出もしなければならず、安静もままならない日々でした。が、今では毎日光線を照射して痛みも軽くなり何とか日常生活をおくっています。また、右眼は以前白内障の手術を受けましたが、左眼はサナモアを知りましたので光線を欠かさずに照射したところとても良く見えようになりました。少々の身

93歳になります。いつもサナモアを愛用させていただきありがとうございます。私は以前から骨粗鬆症を患い、腰痛が悩みの種で今までに注射を20本くらいいちまつたが一向に痛みが改善せずに困っていました。一人暮らしのため外出もしなければならず、安静もままならない日々でした。が、今では毎日光線を照射して痛みも軽くなり何とか日常生活をおくっています。また、右眼は以前白内障の手術を受けましたが、左眼はサナモアを知りましたので光線を欠かさずに照射したところとても良く見えようになりました。少々の身

サナモアを毎日の日課としています



体の不調なら光線を照射して治しております。毎日光線をかけてから、ぬるめのお風呂に入ることを日課としており、寝込むこともなく毎日暮らしていけるのも光線のおかげと心より感謝します。本当に心より厚く御礼申します。

困り果てた私は A.D. カーボンを使用し毎日一時間ずつ三日間照射を続けたところ、これまた驚くほどの回復を見せました。

そんなラッキー君の光線体験ですが、今は結膜炎に対して治療中で、この頃では主人よりサナモアを使う時間が長く照射してもらいたいと言つてはサナモアをたたきます。本当にサナモアがなかつたらと思うとぞーとします。私とラッキー君でこれからも大切にサナモアを使っていきたいと思つています。

もうすぐ7歳になる私の愛犬ラッキー君のサナモア光線体験記を報告します。最初は2歳の時で、けいれん発作をおこしサナモアに助けられました。それ以来、病気とは無縁で、元気者

ラッキー君はお友達からも好かれ、意気揚揚とかわいい鼻つるんとしてハンサムな笑顔を振りまいていました。ところが昨年の二月、ラッキー君が突然血尿を出したため、びっくりして病院に行き検査を受けたところ、腎臓に小さな石が見つかりました。先生から場合によつては手術が必要になるかもしれないと説明を受けたため、毎日光線照射を受け再検査に行つたら、石

### サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものはありません。ついては体験記をお送りくださいますよう、お願いいたします。

(本紙の無断転用を禁止します。)

「健康と光線」の購読者を募集します。また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

（本紙の無断転用を禁止します。）

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、

一、季刊紙、「健康と光線」の発行

二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

医学博士 宇都宮 光明

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

（サナモア光線協会TEL(03)三七九三一五二一八二二）

